

NACSIS-CAT/ILL

ニュースレター

Contents

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 「CiNii Books - 大学図書館の本をさがす」の公開について | 2 |
| 2. 参加組織情報のメンテナンスについて | 3 |
| 3. 平成 22 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表の送付 | 4 |
| 4. 目録システム / ILL システムの改修 | 4 |

(NACSIS-CAT)

- | | |
|---|---|
| 5. 日本語の古典作品についての統一書名典拠作成に関する
コーディングマニュアルの改訂及び関連資料の公開 | 5 |
| 6. 特殊文字・特殊言語資料に関する取扱い及び解説,
コーディングマニュアル抜粋集の公開 | 6 |
| 7. 目録システム利用マニュアル第 6 版の発行 | 7 |

(NACSIS-ILL)

- | | |
|---|---|
| 8. ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告
(平成 23 年度第 2 四半期) | 7 |
|---|---|

(教育研修事業)

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 9. 平成 23 年度目録システム / ILL システム講習会の実施報告 | 8 |
|--------------------------------------|---|

(付録)

- ・コーディングマニュアル 14 章 統一書名典拠レコード (日本名)
- ・コーディングマニュアル 14 章改訂 (平成 23 年 12 月) についての解説
- ・コーディングマニュアル 14 章改訂 (平成 23 年 12 月) についての Q&A
- ・(別紙) 統一書名典拠レコード作成にあたっての「日本古典籍総合目録データベース」との調整手順
- ・和漢古書に関する取扱い及び解説 9. 統一タイトルの取扱い
(平成 23 年 12 月改訂)
- ・特殊文字・特殊言語資料に関する取扱い及び解説
- ・コーディングマニュアル (特殊文字・特殊言語資料に関する抜粋集)



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号
学術コンテンツ課

NACSIS-CAT 担当…………… Tel:03-4212-2310 Fax:03-4212-2375

NACSIS-ILL 担当…………… Tel:03-4212-2320 Fax: 同 上

教育研修事業担当 …… Tel:03-4212-2177 Fax: 同 上

学術基盤課

システム管理担当 …… Tel:03-4212-2220 Fax:03-4212-2230

URL:<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/>

「CiNii Books - 大学図書館の本をさがす」の公開について

平成23年11月9日(水)、CiNiiの新規メニュー「CiNii Books・大学図書館の本をさがす」を公開しました。

URL : <http://ci.nii.ac.jp/books/>

CiNii Books は、全国の大学図書館等が所蔵する本(図書や雑誌等)の情報を検索できるサービスです。国立情報学研究所が運用する目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)に蓄積されてきた全国の大学図書館等約1,200館が所蔵する、約1,000万件(のべ1億冊以上)の本の情報や、約150万件の著者の情報を検索することができます。

なお、NACSIS Webcat は平成25年3月末の終了を予定しています。

◆ CiNii Books の特徴

- 基本機能はNACSIS Webcatを引き継ぎます。
- 所蔵情報からの検索が可能です。特定の図書館の蔵書だけを指定した検索や、特定の地域の図書館に絞り込んだ検索も可能です。
- 検索結果の所蔵館の一覧を絞り込んで表示することができます。海外ILLの参加館や料金相殺の可能な図書館所蔵調査が容易になります。
- 図書・雑誌のページから各大学図書館OPACに直接リンクしていますので、各図書館ごとの詳細な情報を提供できます。(※参加組織ファイルへの設定が必要です。)
- CiNii Articlesに本文が収録されていれば、リンクをたどり本文まで表示できます。
- 著者名典拠情報を公開します。
- 各種ウェブAPI(Application Program Interface)を提供しており、他のシステムやウェブサービスから利用することができます。

◆ CiNii Books で公開されるデータ

- データの公開の範囲は以下のとおりです。
図書書誌(BOOK)、雑誌書誌(SERIAL)、図書所蔵(BHOLD)、雑誌所蔵(SHOLD)、
著者名典拠(NAME)、参加組織情報(MEMBER)
- 更新頻度は週1回です。土曜の業務終了時のデータを翌月曜日未明に反映します。

ご意見やご要望がありましたら「お問い合わせ」ページに設けた「CiNii ご意見・ご感想フォーム」からお寄せください。

URL:<http://ci.nii.ac.jp/info/ja/contact.html>

(学術コンテンツ課)

参加組織情報のメンテナンスについて

CiNii Books では、NACSIS-CAT の参加組織ファイルに登録された情報を基に、各図書館についての表示や検索・リンク等の機能を実現しています。正確な出力をするためには、参加組織情報のメンテナンスが必要となりますので。メンテナンス内容の詳細は、以下の URL に掲載しています。

URL : http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/tool/books_news.html

◆ 「利用方法」 への表示

NACSIS Webcat の表示を引き継ぎます。参加組織情報の POLICY フィールドに導入句「WEBPOLICY:」を付けて入力してください。

◆ OPAC への直接リンクの形成

参加組織情報の POLICY フィールドに、下記形式の記述を追加してください。

OPACURL:http://xxx.xxx.xxx/xxx?ncid=<NCID>

<NCID> の部分が実際の書誌 ID に置換されます。

※詳細は本誌 33 号(2011.7.29)をご覧ください。

◆ 参加組織名称の英語表記（英語版ページに表示）

参加組織情報の POLICY フィールドに、下記形式の記述を追加してください。

WEBPOLICY:ILL-Org:xxx.xxx University Library （組織名を記入）
WEBPOLICY:ILL-Address:1-2-3 XXX-ku, Tokyo, JAPAN （所在地を記入）
WEBPOLICY:ILL-ZIP:123-4567 （郵便番号を記入）
WEBPOLICY:ILL-Commun1:Tel:+81-12-345-6789 /FAX:+81-12-345-6789 /
E-mail:aaa@yyyy-u.ac.jp （連絡先を記入）

◆ 日韓 ILL 参加館絞込みへの対応

参加組織情報の POLICY フィールドに、下記形式の記述を追加してください。

WEBPOLICY:ILL-Accept : Foreign(2): KERIS

◆ 日米 ILL 参加館絞込みへの対応

参加組織情報の OCLCID（OCLC 利用者 ID）フィールドへの情報の記入を行ってください。

修正した情報が CiNii Books に反映されるのは週 1 回（月曜日未明）です。

なお、EMAIL フィールドへのメールアドレスの設定について、未設定の参加館や誤った設定がなされている参加館がありました。この機会にあわせて、ご確認ください。

(学術コンテンツ課)

平成 22 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表の送付

平成 22 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表については、データ利用の利便性を鑑み、メール添付によるデータ（Excel 形式）送付のみにいたします。

ご希望の機関は、以下のとおり、メールでの申請をお願いします。

- ・メールの宛先：catadm@nii.ac.jp（学術コンテンツ課 NACSIS-CAT 担当）
- ・メールの件名：H22 業務分析表電子データ申請（機関名）
- ・申請内容
機関名、KID 番号（不明の場合は参加組織番号）、担当者名、メールアドレス

詳しくは、以下の URL にてお知らせしています。

URL：<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/bunseki2011.html>

(NACSIS-CAT/ILL 担当)

目録システム／ILL システムの改修

以下のとおり、目録システム／ILL システムの改修を行いました。

◆ BLDSC 依頼機能の抑止（平成 23 年 6 月）

本誌 31 号(2010.12.28)でお知らせした「NACSIS-ILL による BLDSC 依頼サービスの終了」に伴い、BLDSC への依頼を系統的に抑止するよう改修を行いました。

◆ コードの追加（平成 23 年 11 月）

DC23 DC23 版（分類表の種類）

(NACSIS-CAT/ILL 担当)

日本語の古典作品についての統一書名典拠作成に関する コーディングマニュアルの改訂及び関連資料の公開

平成23年8月に、和古書の統一書名典拠作成規則（コーディングマニュアル）案へのパブリックコメントの募集（本誌33号(2011.7.29)参照）を行いました。

頂いたご意見を参考にして、再度の検討の結果、以下の資料を公開しました。

- ・和漢古書に関する取扱い及び解説 9. 統一タイトルの取扱い（平成23年12月改訂）
- ・コーディングマニュアル14章 統一書名典拠レコード(日本名)
- ・コーディングマニュアル14章改訂（平成23年12月）についての解説
- ・コーディングマニュアル14章改訂（平成23年12月）についてのQ&A
- ・(別紙) 統一書名典拠レコード作成にあたっての「日本古典籍総合目録データベース」との調整手順

パブリックコメントを元に検討の結果、当初想定していた和漢古書の統一書名典拠の範囲にとどまらず、日本語の古典作品についての統一書名典拠作成全体の規則として、「コーディングマニュアル14章 統一書名典拠レコード(日本名)」の改訂を行いました。また、実務にあたって生じるであろう疑問や判断の難しい点の参考となるようQ&A等の関連資料を作成しました。

上記案の策定及びパブリックコメントを元にしたその後の検討にあたっては、統一書名典拠検討ワーキンググループを中心に行いました。

統一書名典拠検討ワーキンググループのメンバーは以下のとおりです。

帝塚山学院大学 人間科学部 准教授	渡邊 隆弘（主査）
東京大学附属図書館 情報管理課 主査（兼目録情報係長）	石川 一樹
名古屋大学附属図書館 情報システム課 図書情報掛	森 彩乃
国際日本文化研究センター 資料課 資料利用係長	江上 敏哲
国文学研究資料館 管理部学術情報課 マイクロ資料目録係長	増井 ゆう子
国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 図書館連携チーム（NACSIS-CAT 担当）	（事務局）

詳しくは、以下のURLにてお知らせしています。

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/catmanual.html#4>

既存の統一書名典拠レコードについては、NII で一括して修正作業を行う予定です。詳細は、別途 NACSIS-CAT/ILL ホームページでお知らせします。

付録として、改訂部分のコーディングマニュアル及び関連資料を添付します。

(NACSIS-CAT 担当)

特殊文字・特殊言語資料に関する取扱い及び解説、 コーディングマニュアル抜粋集の公開

平成 21 年 9 月に、「特殊文字・特殊言語資料」に関する取扱い案へのパブリックコメントの募集（本誌 28 号(2009.10.30)参照）を行いましたが、これまでに頂いたご意見を参考にして、関係参加機関とも協議の上、「特殊文字・特殊言語資料に関する取扱い及び解説、コーディングマニュアル抜粋集」を公開しました。

これにより、別途規則の定められている中国語、韓国・朝鮮語、アラビア文字、タイ文字、デーヴァナーガリー文字以外の特殊文字・特殊言語で書かれた資料については、本取扱い及び解説、コーディングマニュアル抜粋集によることとします。

詳しくは、以下の URL にてお知らせしています。

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/catmanual.html#3>

今回の取扱い及び解説、コーディングマニュアル抜粋集の公開に合わせて、文字コードの割り当てや翻字等の問題により、検索にゆれが生じると考えられる点について、正規化処理のシステム改造を行います。また、正規化処理については、「NACSIS-CAT における正規化処理について」を、平成 23 年度末に公開する予定です。詳細は、別途 NACSIS-CAT/ILL ホームページでお知らせします。

なお、本号に付録として、取扱い及び解説、コーディングマニュアル抜粋集を添付します。

(NACSIS-CAT 担当)

目録システム利用マニュアル第6版の発行

平成23年11月に、目録システム利用マニュアル第6版を発行しました。

今回の改訂においては、第5版からの大幅な変更はなく、これまでの細かいシステム改修による追加や訂正等のみの変更となっているため、既参加館への配付は行わず、新規参加館への配付のみとします。第5版からの変更点については、以下のURLでご確認ください。

URL : http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/MAN2/MAN5/CAT6/diff5_6.html

(NACSIS-CAT 担当)

ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告

(平成23年度第2四半期)

ILL 文献複写等料金相殺サービスの処理状況は、以下のとおりです。

■ 平成23年度第2四半期 (平成23年7月～9月)

- ・利用機関数：830
- ・処理対象 ILL レコード件数：193,739 (NACSIS-ILL 総レコード件数：215,566)

		対債務機関	対債権機関
機関数		483	347*
NII の請求額/支払額		19,599,357	▲19,531,923*
内 訳	相殺金額	19,586,463	▲19,586,463
	運営費 (税込)	14,175	4,725
	前期債権繰越額	▲1,281	▲7,113
	振込手数料	0	56,928

* 対債権機関の機関数、NII の支払額には次期繰越分(10 機関, 4,611 円)が含まれています。

(NACSIS-ILL 担当)

平成 23 年度目録システム/ILL システム講習会の実施報告

平成 23 年度の目録システム/ILL システム講習会を、下記のとおり実施しました。

本講習会では、平成 20 年度より、1)「職場でのセルフラーニング (NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材及びセルフラーニング修得テストの履修)」と2)「講習会場での集合研修 (講義・実習)」という構成で実施しています。

講習会名	回 数		修了者数
目録システム講習会 (図書コース)	NII 会場	6 回	345 名
	地域会場	8 回	
目録システム講習会 (雑誌コース)	NII 会場	3 回	172 名
	地域会場	3 回	
ILL システム講習会	地域会場	3 回	67 名
計		23 回	584 名

平成 24 年度も、引き続き「職場でのセルフラーニング」と「講習会場での集合研修」をもって、講習会の課程を修了するものとします。平成 24 年度は、図書コース、雑誌コース共に「所蔵登録」部分が新たにセルフラーニング教材として追加される予定です。受講者の所属機関においては、より一層、業務時間内でのセルフラーニング教材の視聴及び修得テストの受験について、ご配慮くださいますようお願いいたします。

なお、セルフラーニング教材は利用申込することにより、どなたでもご利用になれます。詳細については、以下の教育研修事業ウェブサイトにてお知らせしています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/>

平成 24 年度の講習会開催に係る情報は、『平成 24 年度教育研修事業要綱』として平成 24 年 4 月に各機関宛に冊子をお送りするとともに、上記ウェブサイトでもお知らせします。

(教育研修事業担当)

第14章 統一書名典拠レコード（日本名）

この章では、統一書名典拠ファイルに登録すべき日本名のレコードについて、新規入力におけるデータ記入の方法を示す。

流用入力及びレコード修正におけるデータ記入の方法のうち、それぞれの章で特に規定されていない事項については、この章の規定に従ってデータ記入を行う。

第15章で規定する事項のうち、この章と共通するものについては、その章でさらに別の規定が示されていない限り、この章の規定に従ってデータ記入を行う。

〔目録規則との関係〕

データ記入を行う際は「日本目録規則 1987 年版改訂版」（以下「NCR87R」という）に準拠する。また音楽作品名に対するレコードのデータ記入を行う際は、音楽図書館協議会目録委員会編「日本目録規則本版音楽作品の統一タイトル（案）」（1985.12.18）（以下、「音図協案」と略す。また、本章で特に断りなく「NCR87R」という場合は、「音図協案」も含める）をも参照する。

それぞれのフィールドにデータ記入を行う際に準拠すべき「NCR87R」及び「音図協案」の条項番号を以下に示す。

「—」は、準拠すべき条項が存在しないことを示す。

なお、準拠すべき条項であっても、「目録情報の基準」及び本マニュアルと相違する事項については、「目録情報の基準」及び本マニュアルに従うことに注意する必要がある。

（⇒第50章、第51章）

14.0.1	日本名，日本名以外	—
14.1.1	ID	—
14.1.2	MARC	—
14.2.1	HDNG	26.2 (音図協案) 2, 3, 4, 5, 6, 7
14.3.1	UNID	—
14.4.1	SF	(音図協案) 9
14.4.2	SAF	—
14.5.1	NOTE	—

14.0.1 日本名、日本名以外

ここでは、HDNGフィールドに記録する統一標目形の決定に際して、著作の名称が日本名（NCR 87 Rの該当条項及び本マニュアルの第14章を適用しデータ記入を行なうべき名称）であるか、日本名以外（AACR 2の該当条項及び本マニュアルの第15章を適用しデータ記入を行なうべき名称）であるかを判断する基準を示す。

14.0.1A [通則]

A1 統一タイトルのみからなる統一標目形の場合（単独形）

A1.1

創作された著作の言語が日本語、中国語又は韓国・朝鮮語である場合は、当該著作の名称は日本名である。

NCR 87 R及び本マニュアルの第14章を適用しデータ記入を行なう。

目録対象資料上の表示： 宇治拾遺物語

創作された著作の言語： 日本語

HDNG: 宇治拾遺物語 (KOTEN:657) || ウジ シュイ モノガタリ
(NCR 87 R, 本マニュアルの第14章を適用)

変更

A1.2

創作された著作の言語が上記以外である場合は、当該著作の名称は日本名以外である。

AACR 2及び本マニュアルの第15章を適用しデータ記入を行なう。

目録対象資料上の表示： ヨハネによる福音書

創作された著作の言語： ギリシア語

HDNG: Bible. N. T. John
(AACR 2, 本マニュアルの第15章を適用)

A1.3

音楽作品のように、著作の言語により判断できない場合は、当該作品のよく知られた名称の言語を考慮し判断する。

14.0.1A〔通則〕（続）

A2 著者標目と統一タイトルからなる統一標目形の場合（複合形）

A2.1

著者標目が日本名である場合は、当該著作の名称は日本名である。

NCR 87R 及び本マニュアルの第14章を適用しデータ記入を行なう。

目録対象資料上の表示： The twilight heron

作品の作曲者： 団伊玖磨

HDNG:団, 伊玖磨(1924-) -- 夕鶴 (歌劇)||ダン, イマ -- ユズル (カゲキ)
(NCR 87R, 本マニュアルの第14章を適用)

A2.2

著者標目が日本名以外である場合、当該著作の名称は日本名以外である。

AACR 2 及び本マニュアルの第15章を適用しデータ記入を行なう。

目録対象資料上の表示： 歌劇「ドン・ジョバンニ」

作品の作曲者： モーツァルト

HDNG:Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791 -- Don Giovanni
(AACR 2, 本マニュアルの第15章を適用)

14.0.1B《注意事項》

B1

日本名に対して、AACR 2 を適用し統一標目形を決定してはならない。

日本名に対するAACR 2に基づく標目形は、統一標目形フラグとしてアステリスク（*）を付し、SFフィールドに記録する。

B2

外国名に対して、NCR 87R を適用し統一標目形を決定してはならない。

外国名に対するNCR 87Rに基づく標目形は、統一標目形フラグとしてアステリスク（*）を付し、SFフィールドに記録する。

〔関連項目〕

14.2.1 HDNG

14.4.1 SF

15.2.1 HDNG

15.4.1 SF

14.1.1 ID

14.1.1A〔形式〕

ID	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
レコードID	自動付与	固定長	10 バイト	1

14.1.1B〔フィールド内容とデータ要素〕

IDフィールドには、目録システムがそれぞれのレコードに対して付与した英数字10桁から成るレコードIDがデータ要素として記録される。

目録システムは、レコードIDによってそれぞれのレコードの管理を行う。

14.1.1C〔データ記入及び表示例〕

レコードIDの付与は、COPYコマンド又はCREATEコマンド発行の時点で行われる。当該コマンドが発行されると、目録システムは、新規に登録されるレコードに対して新たにレコードIDを付与し、新規入力画面／流用入力画面に当該レコードIDを表示する。

レコードIDは、画面上では、1バイトコードの不等号（<）と（>）の間に表示される。

<EA0002136X>

レコードIDは、目録システムが自動的に付与するものであり、目録担当者が入力することはできない。

〔関連項目〕

14.4.2 SAF

14.5.1 NOTE

14. 1. 2 MARC

14. 1. 2 A〔形式〕

MARC	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
変更ありフラグ	自動付与	可変長	7バイト	1

14. 1. 2 B〔フィールド内容とデータ要素〕

MARCフィールドには、流用元参照レコードに対して定期更新時に何らかの修正が行われたことを示す英数字7桁から成るコードがデータ要素として記録される。

14. 1. 2 C〔データ記入及び表示例〕

変更ありフラグは、目録システムが自動的に付与するものであり、目録担当者が入力することはできない。

なお、変更ありフラグが表示されているレコードに対してEDITコマンドが発行された場合は、登録コマンド発行後、目録システムは、MARCフィールドの表示を行わなくなる。当該レコードに対して再度MARCフィールドが表示されるのは、流用元参照レコードに対して再び修正が行われた場合のみである。

流用元参照レコードに対してレコード修正が行われた場合

MARC:arrived

流用元参照レコードが削除された場合

MARC:deleted

流用元参照レコードに対して修正が行われていない場合は、このフィールド自体が表示されない。

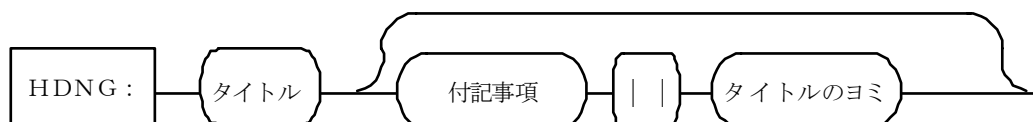
14. 2. 1 HDNG

14. 2. 1 A〔形式〕

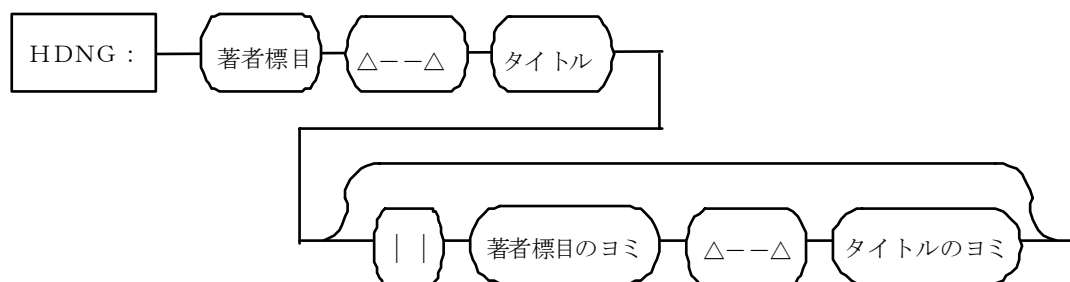
HDNG	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
統一標目形	必須1	可変長		1
名称	必須1	(可変長)	(254 バイト)	
名称のヨミ	必須2	(可変長)	(254 バイト)	

14. 2. 1 B〔記述文法〕

- 1) 名称がタイトルのみの場合（単独形）



- 2) 名称が著者標目とタイトルから成る場合（複合形）



14. 2. 1 C〔フィールド内容とデータ要素〕

HDNGには、統一タイトルの統一標目形を記録する。

HDNGのデータ要素は、名称、付記事項及び名称のヨミである。

HDNGは一意的なものではなくてはならない。したがって名称等が一致するような場合は、何らかの付記事項を加えた形で記録する。

名称は次の要素から成る。

- 1) ①無著者名古典，聖典，作曲者を有しない音楽作品名
 タイトルのみ（単独形）
 必要に応じて付記事項を加える

変更

追加

変更

14.2.1C【データ要素】(続)

変更

- ②著者等を有する古典作品名
 タイトルのみ（単独形）
 ただし、著者名を付記事項として加える。必要に応じて他の付記事項も加える
- 2) 作曲者を有する音楽作品名
 著者標目とタイトル（複合形）
 必要に応じて付記事項を加える

名称のヨミは次の要素からなる。

変更

- 1) 無著者名古典を含む古典、聖典、作曲者を有しない音楽作品名の場合
 タイトルのヨミのみ（単独形）
- 2) 作曲者を有する音楽作品名
 著者標目のヨミとタイトルのヨミ（複合形）

14.2.1D【データ記入及び記入例】

D1

名称は、資料に顕著に表示されている文字の形で記録する。

D2

著者標目とタイトルの間には、スペース、ハイフン、ハイフン、スペース（△ー△）を記入する。

D3

著者標目及び著者標目のヨミの形は、著者名典拠レコード（日本名）のHDNGに規定するところに従う。（⇒8.2.1, 9.2.1, 10.2.1）

D4

名称全体がローマ字、カタカナ、数字で表記されている場合は、名称のヨミを記録する必要はない。

D5

無著者名古典を含む古典作品名からなるタイトルで、他の統一タイトルと区別したり、さらに敷衍する必要がある場合には、付記事項を記録する。統一タイトルにおける付記事項は、タイトルに続けて丸括弧（（ ））内に記録する。

なお、付記事項のヨミは記録しない。

D6

著作の成立に責任性を持つ著者等を有する日本語の古典作品（記録史料・文書等を除く、1868年以前に成立した日本語の著作全般）においては、著者名（著者等の名称。必要に応じて役割を付す。）を付記事項とする。この付記事項はタイトルの識別の必要の有無にかかわらず記録する。

著者名の記録方法は、和図書書誌レコードのTR（責任表示及び並列責任表示）に規定するところ準じる。（⇒2.2.1F3.3, F3.4, F3.5）

追加

14. 2. 1 D〔データ記入及び記入例〕（続）

D 7

日本語の古典作品の統一書名典拠レコードの作成単位は、国文学研究資料館の提供する「日本古典籍総合目録データベース」（<http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/about.html>）に該当する著作レコードがある場合は、その単位に揃える。該当する著作レコードがない場合は、「目録情報の基準 第4版」9.2.2.に従い、著作を単位とする。

D 8

「日本古典籍総合目録データベース」に収録されている日本語の古典作品は、同データベースの著作レコード中の「統一書名」をそのままタイトルとして採用する。あわせて、付記事項として「KOTEN:」に続けて同レコード中の「著作 ID」（著作レコード番号）を記録する。この付記事項は識別の必要の有無にかかわらず記録する。

同データベースの著作レコード中にフィールド「著者」が存在する場合は、「著者」を最初の付記事項としてまず記録し（記録方法は前項に従う）、続けて「著作 ID」を記録する。「著者」名と「著作 ID」の間には、スペース、コロン、スペース（△:△）を置く。

なお、「日本古典籍総合目録データベース」の著作レコードでは資料に示された著者名形（「作品著者名」）と統一標目に相当する「統一著者名」の形が異なる場合があり、その際は「作品著者名」の後ろに、「統一著者名」の形を丸括弧(())に入れて付記する形をとっている。そのような形の著作レコードを元に統一書名典拠レコードを作成する場合は、統一書名典拠レコードの付記事項には「統一著者名」を採用して記録する。

タイトルのヨミについては、「目録情報の基準」の11.3.3(分かち書き)によって分かち書きを行う。

（例）HDNG: 竹取物語(KOTEN:5389)||タケトリ モノガタリ

* 「日本古典籍総合目録データベース」の著作レコード

著作 ID:5389

統一書名:竹取物語（たけとりものがたり）

（無著者名古典）

（例）HDNG: 水無瀬三吟百韻(宗祇, 肖柏, 宗長 : KOTEN:505191)||ミナセ サンギン ヒャクイン

* 「日本古典籍総合目録データベース」の著作レコード

著作 ID:505191

統一書名:水無瀬三吟百韻（みなせさんぎんひゃくいん）

著者:宗祇

肖柏

宗長

（「著者」の数が同一役割で3までの場合）

（例）HDNG: 古今和歌集(紀友則 [ほか] 撰 : KOTEN:2664)||コキン ワカシュウ

* 「日本古典籍総合目録データベース」の著作レコード

著作 ID:2664

統一書名:古今和歌集（こきんわかしゅう）

著者:紀/友則

紀/貫之

凡河内/躬恒

壬生/忠岑 撰

（「著者」の数が同一役割で4以上の場合）

追加

14.2.1D【データ記入及び記入例】（続）

（例）HDNG：古事記（太安麻呂編：KOTEN:2880）||コジキ

＊「日本古典籍総合目録データベース」の著作レコード

著作 ID:2880

統一書名:古事記（こじき）

著者:太／安万侶（太／安麻呂）編

（作品著者名と統一著者名が異なる場合。「太／安万侶」が作品著者名、「太／安麻呂」が統一著者名）

（例）HDNG：江戸名所図会（斎藤長秋著；長谷川雪旦画：KOTEN:14324）||エドメイショズエ

＊「日本古典籍総合目録データベース」の著作レコード

著作 ID:14324

統一書名:江戸名所図会（えどめいしょずえ）

著者:松濤軒／斎藤／長秋（斎藤／長秋）著

長谷川／雪旦 画

（「著者」に複数の役割がある場合。なお、「松濤軒／斎藤／長秋」が作品著者名、「斎藤／長秋」が統一著者名）

D9

追加

著者標目のヨミとタイトルのヨミとの間には、スペース、ハイフン、ハイフン、スペース（△ー△）を記入する。

HDNG:竹取物語||タケトリモノガタリ

HDNG:儀禮||ギレイ

削除

HDNG:細川, 俊夫(1955-) -- 時の果てへ||オカキ, トオ -- トキノハテエ

HDNG:武満, 徹(1930-) -- Asterism||タケミ, トル -- Asterism

（作品名がローマ字、カタカナ、数字で表記されている場合）

D10

楽曲形式名からなるタイトルの場合、当該楽曲形式名称の日本語形に必要な付記事項を付し記録する。
楽曲形式名には付録3. 1「楽曲形式名名称」に定める日本語形を使用する。

HDNG:伊福部, 昭 (1914-) -- ソナタ, ヴァイオリン, ピアノ ||イクベ, アキラ -- ソナタ, ヴァイオリン, ピアノ

D11

必要な付記事項のうち、演奏手段には付録3. 2「楽器（群）名称」に定める日本語形を使用する。

D12

音楽作品に対する統一標目形で、次のものに対応する集合タイトルをタイトルとすることができる。

1) 作曲者の全作品

- 2) さまざまな楽曲形式，演奏手段の複数の作品
- 3) 特定の楽曲形式，演奏手段の複数の作品

HDNG:山田，耕筰（1886-1965） -- 全集||ヤマダ，コウサク -- ゼンシュウ

14.2.1E（選択事項）

名称全体がローマ字，カタカナ，数字で表記されている場合であっても，名称のヨミを記録するかどうかは，各参加組織が自由に選択する。

14.2.1F《注意事項》

F1

著作の言語，訳，刊年等は，統一標目形に含めてはならない。これらは，書誌レコードのUTLフィールドの「その他の情報」に記録する。

次のような統一標目形は，誤りである。

（誤）HDNG:山田，耕筰（1886-1965） -- 全集（1989）||ヤマダ，コウサク -- ゼンシュウ（1989）

（誤）HDNG:団，伊玖磨（1924-） -- 夕鶴（歌劇）. 英語ほか||ダン，イクマ -- ユズル（カゲキ）
エゴ 朧

F2

名称が著者標目及びタイトルから成る場合（複合形），そのヨミは必ず著者標目及びタイトル両者に対応して付ける。

著者標目が漢字等で，タイトルがローマ字，カタカナ，数字で表記されている場合でも，著者標目に対応するヨミとともに，タイトルに対応するヨミも省略せずに記録する。

次のような統一標目形は，誤りである。

（誤）HDNG:武満，徹（1930-） -- Asterism||タケミツ，トオル

〔関連項目〕

- 2.3.3 UTL
- 8.2.1 HDNG
- 9.2.1 HDNG
- 10.2.1 HDNG
- 15.2.1 HDNG

1 4 . 3 . 1 UNID

1 4 . 3 . 1 A〔形式〕

UNID	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
同定不能フラグ	不使用	固定長	1バイト	1

1 4 . 3 . 1 B〔フィールド内容とデータ要素〕

UNIDフィールドは不使用とする。

1 4 . 3 . 1 C〔データ記入〕

UNIDフィールドには同定不能フラグ等、いかなるデータをも記入してはならない。

変更

14. 5. 1 NOTE

14. 5. 1 A〔形式〕

NOTE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
注記	必須1	可変長	1024バイト	1

14. 5. 1 B〔記述文法〕

NOTE: 注記

14. 5. 1 C〔フィールド内容とデータ要素〕

NOTEフィールドには、典拠レコード内のデータ作成・修正等に関する各種情報を記録する。

NOTEフィールドは、他のフィールドには記録できないが、各参加機関が必要とする各種情報を記録するために設けられたフィールドである。

14. 5. 1 D〔データ記入及び記入例〕

D 1

統一標目形を決定し、典拠レコード作成の根拠とした目録対象資料について、そのタイトル、出版者、出版年等の書誌情報を記録する。

また、国文学研究資料館の提供する「日本古典籍総合目録データベース」を根拠とした場合や、何らかの資料に拠ったのではなく推量による記述等の場合にも、その旨を記録する。

(例) NOTE: 搜神記 / 干宝著 ; 竹田晃訳 (平凡社, 1964) による

(例) NOTE: 国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」による

(例) NOTE: 標目のヨミは推量による

D 2

統一書名典拠レコードの識別に有効な場合は、国文学研究資料館の提供する「日本古典籍総合目録データベース」の著作レコード中の「分類」「成立年」等を記録することが望ましい。

(例) HDNG: 太平記 (KOTEN: 5298) || タイヘイキ
NOTE: 浄瑠璃

(「分類」が軍記物語や黄表紙の「太平記」ではない)

追加

コーディングマニュアル 14 章改訂（平成 23 年 12 月）についての解説

平成 23 年 12 月公開

コーディングマニュアル 14 章 統一書名典拠レコード（日本名）の改訂にあたって、以下のとおり、日本語の古典作品についての改訂内容を解説する。

NCR87R3 26. 0. 2 の規定にかかわらず、日本語・中国語等の古典作品については著者を有するものであっても、UTL フィールドに統一タイトル（統一書名典拠レコードの統一標目形）を記録し、また統一書名典拠レコードを作成してリンク形成することができる。

日本語の古典作品においては、その統一タイトルにはタイトルのみの単独形を採用する。ただし、その作品が著者等を有する場合、著者名を付記事項とする。

また、日本語の古典作品の統一タイトルに限っては、国文学研究資料館が公開する日本古典籍総合目録データベースの著作典拠ファイルに該当する著作データが存在していれば、統一タイトルに付記事項としてその著作 ID（WID）を記録することとする。該当する著作が存在しないか同定できない場合は、著作 ID は記録しない。

日本語の古典作品の統一書名典拠レコードの作成単位は、日本古典籍総合目録データベースに該当する著作レコードがある場合は、その単位に揃える。該当する著作レコードがない場合は、「目録情報の基準. 第 4 版」9. 2. 2. に従い、著作を単位とする。

NCR87R3 では統一タイトルの適用は「無著者名古典、聖典および音楽作品」の範囲に限られているが、「和漢古書に関する取扱い及び解説 9. 統一タイトルの取扱い」において、和漢古書における著作単位での集中の重要性を考慮し、著者を有する古典作品にも適用できることとした。「目録情報の基準. 第 4 版」9. 2. 1. では中国語資料に限って作成範囲を「無著者名古典を含む古典、聖典及び音楽作品」としており、これを日本語資料にも適用する。また、ここで言う「日本語の古典作品」とは、「記録史料・文書等を除く、1868 年以前に成立した日本語の著作全般」を指す。日本語の古典作品が収録された資料であれば、和古書に限らず、近現代刊行資料でも、統一書名典拠レコードの作成およびリンク形成について、コーディングマニュアル 14 章の「日本語の古典作品」についての記載を適用できる。

NCR87R3 では、統一タイトル標目の形として「単独形（統一タイトルを単独で用いる形）」と「複合形（著者名のもとに統一タイトルを続けて用いる形）」が示されており、CM14. 2. 1 では、作曲者を有する音楽作品について複合形を採用している。しかし、日本語の古典作品については、従来の和古書目録の慣行などを勘案して、常に単独形を採用し、著者名は付記事項として記録することとする。

また、日本語の古典作品については、「国書総目録」「古典籍総合目録」の情報を引き継いだ日本古典籍総合目録データベース（国文学研究資料館）の著作典拠ファイルが、相当数の著作をカバーするデータベースとして構築中である。その成果を有効に活用し、また両データベースの将来的な連携の可能性を目指して、統一タイトルに付記事項として日本古典籍総合目録データベースの著作 ID（WID）を記録することとする。

日本古典籍総合目録データベースにおける「著作」の単位は、「国書総目録」の項目の単位に倣ったため、目録規則や FRBR（書誌レコードの機能要件）におけるそれとは完全に一致せず、FRBR でいう表現形・体现形の違いを別「著作」と見なす場合がある。このような場合も、同データベースを根拠として統一書名典拠レコードを作成する限りにおいては、その単位に従うこととした。

(例)「田舎談義」(著作 ID 96899)

「在所の花」(著作 ID 29038)

※同一著作が改題されたもの。日本古典籍総合目録データベースでは別著作としてそれぞれにレコードがある。

なお、当面は参加館が日本古典籍総合目録データベース

(<http://basel.nijl.ac.jp/~tkoten/about.html>)を検索し、同定したレコードを流用して統一書名典拠レコードを新規作成または修正をする。

中国語の古典作品の具体的な作成規則については、検討中である。

日本語の古典作品の統一書名典拠作成についての Q&A

平成 23 年 11 月公開

平成 23 年 8 月に公開した「和古書の統一書名典拠作成規則（案）」へは、多くのご意見・ご質問をお寄せいただき、ありがとうございました。皆様のご意見を元に、再度内容を検討し、最終的に「和漢古書に関する取扱い及び解説」9. 統一タイトルの取扱い及びコーディングマニュアル 14 章の改訂、「コーディングマニュアル 14 章改訂（平成 23 年 11 月）についての解説」の公開を行ないました。なお、取扱い・解説・コーディングマニュアルへは反映しきれなかったご意見やご質問、また、実務にあたって生じるであろう疑問や判断の難しい点について、Q&A 形式でお答えいたします。

■検討の経緯に関する Q&A

Q 1 なぜ今の時期に統一タイトルに関するルールを策定することになったのでしょうか。

A 1

平成 15 年 6 月に本運用を開始した「和漢古書に関する取扱い」では、統一タイトルについて、「和漢古書における著作単位での集中の重要性を考慮し、著者を有する古典作品にも適用できることとした」「具体的な作成規則については、「国書総目録」等、広く使われている和漢書の目録との整合性などを考慮しながら検討中」としていました。今回の改定案はこの路線に則ったものですが、「取扱い」の運用から 8 年余も経っているだけに「なぜ今」と思われるかもしれません。

平成 23 年度より、NII が実施する「総合目録データベース遡及入力事業」の公募において、貴重資料を排除しない方針がとられることとなりました。これにより、今後まとまった量の和漢古書書誌レコードが登録されると予想されます。また、実際に和古書の登録を検討している参加機関から、統一書名リンク（UTL）の扱いについて質問が寄せられました。このような経緯を踏まえ、今回、ルール整備を行うこととしました。

Q 2 なぜ国文学研究資料館の日本古典籍総合目録データベースの情報を流用したり、その著作 ID を記録したりするのでしょうか。どのような意味があるのでしょうか。

A 2

日本語の古典作品の著作名を収録したデータベースとして、国文学研究資料館の日本古典籍総合目録データベースほど規模が大きく、多くの著作をカバーし、安定した長い実績を持つデータベースは、他に類がありません。また、冊子体の国書総目録の頃から長きにわたって利用されてきた、和古書資料の利用者・図書館員ともにもっともなじみの深いレファレンスツールであるとも言えます。これを NACSIS-CAT でも外部の典拠ファイルとして参照することで、その成果を有効に活用したいと考えました。

また、情報をただ参照・流用するだけでなく、著作 ID を記録しておくことによって、将来何らかの形で実現するかもしれない機械的な連携に備え、両データベースの成果がさらに有効活用されることを期待したい、と考えました。

Q 3 日本古典籍総合目録データベースの著作 ID をなぜ HDNG フィールドに記入するのでしょうか。NOTE フィールドに記録したり、専用のフィールドを新たに設けたりできないのでしょうか。

A 3

現在の NACSIS-CAT のシステムの大幅な改変は行わない方針とした、というのが大きな理由のひとつです。このため、専用のフィールドを新設することはいたしません。

また、HDNG フィールドに全く同じ値を持つ統一書名典拠レコードを複数登録できない、という NACSIS-CAT のシステム上の制約があります。日本語の古典作品では、タイトルが同じであったり、特徴のない一般名詞であったりする場合が多く、HDNG フィールドに関するこのシステム上の制約のためにレコードを登録できないおそれがあります。このため、ユニークな値を持つ日本古典籍総合目録データベースの著作 ID を記録することを提案しました。

タイトルだけでは区別できないというような必要な場合にだけ記録する、という案も検討しましたが、ルール of 簡便さとレコードの統一性を重視し、日本古典籍総合目録データベースに著作のあるすべての統一書名典拠レコードで HDNG フィールドに著作 ID を記録することとしました。

Q 4 著者があれば必ず付記事項に記録しなければならないのでしょうか。なぜ付記事項にするのでしょうか。

A 4

著作を識別・同定するのに、タイトルと並んで著者が重要な要素となります。また、日本語の古典作品にはタイトルが同じであったり、特徴のない一般名詞であったりする場合が多く、タイトルのみでの識別が困難な場合があります。このため、著者が存在していれば常に付記事項として HDNG に含めることにしました。

現在、音楽資料に用いている複合形（著者名のもとに統一タイトルを続けて用いる形）の標目は、いわゆる著者基本記入方式の考え方に立つものです。東洋の著作には基本記入標目の判断が難しい場合も多いことを考え、付記事項としました。

なお、この著者名は識別のための付記事項として記録されるため、検索のための AUTH キーの切り出しには利用されません。

Q 5 日本古典籍総合目録データベースとの連携を重要視するのなら、参照ファイル等の形で同データベースを一括して取り込めばよいのではないのでしょうか。

A 5

そのような形で日本古典籍総合目録データベースのデータが利用できれば、確かに便利です。ただ、その実現にはシステム面・権利面等、クリアすべき事項がいくつかあり、直ちには困難です。密な連携は将来的な課題とし、当面は目録担当者が日本古典籍総合目録データベース (<http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/about.html>) を調査してデータ作成または修正を行うこととします。

Q 6 国文学研究資料館の日本古典籍総合目録データベースの著作 ID だけでいいのでしょうか。例えば、国立国会図書館の Web NDL Authorities（国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス）で提供している統一タイトル件名はここでは扱わないのでしょうか。

A 6

今回の改訂では扱いませんが、将来的課題であろうと認識しています。

Q 7 中国語、韓国・朝鮮語の古典作品についてはどう扱われるのでしょうか。

A 7

今回のルール策定は日本語の古典作品を対象とし、中国語、韓国・朝鮮語の古典作品についてはなお「検討中」です。

■実務・運用にあたっての Q & A

Q 8 日本の古典作品を収録した近現代刊行資料（例：「徒然草」の現代語訳や英語版）の書誌レコードからも、この取扱い・コーディングマニュアルに従って作成した統一書名典拠レコードへリンクさせるのでしょうか。

A 8

今回のコーディングマニュアル 14 章の改訂およびその解説の作成は「和漢古書に関する取扱い」検討の延長として行なわれたものでした。しかしながら、統一書名典拠レコードは著作の名称をコントロールするものですので、その著作が収録された近現代刊行資料や外国語による出版物の書誌レコードからもリンクされてしかるべきです。

「和漢古書に関する取扱い」1.の適用範囲「和古書は 1868 年以前」などの基準に関わらず、日本語の古典作品を収録した資料の書誌レコードであればコーディングマニュアル 14 章の日本語の古典作品についての記載が適用される、と考えてください。

なお、平成 23 年 7 月段階の改訂案では、「和漢古書に関する取扱い及び解説」の該当部分を修正して解説していましたが、近現代刊行資料への適用を考慮して、「コーディングマ

ニュアル 14 章改訂についての解説」の形をとることとしました

Q 9 日本古典籍総合目録データベースに著者名が「著者:太／安万侶（太／安麻呂）編」のように 2 種類書かれていることがあります。どちらを採用するのでしょうか。

A 9

日本古典籍総合目録データベースの著作レコードでは、その著作に示された著者名形（「作品著者名」、ここでは「太／安万侶」と「統一著者名」（ここでは「太／安麻呂」）とが異なる場合があります、「作品著者名」のあとに「統一著者名」を丸括弧(())に入れて付記しています。この場合、付記事項には「統一著者名」のほうを採用して記録してください。

Q 10 日本古典籍総合目録データベースの著作レコードの作成単位に疑問の残るものがあります。同じ著作なのに 2 つの書名でレコードがわかれてしまっているものや、同じ著作とは言えないのにレコードが 1 つしかなくわかれていないものなどです。このような場合でも日本古典籍総合目録データベースでのレコード単位にそのまま従うのでしょうか。

A 10

目録規則で統一タイトルをどう取り扱うか、については、日本ではまだ議論・実践の蓄積が不足しているというのが現状かと思います。「日本目録規則（NCR）」の抜本的見直しも開始されており、落ち着く先は現時点では不透明です。今回の運用は過渡的なものととらえ、日本の古典作品のデータベースとしてこれまでの長い実績を持つ日本古典籍総合目録データベースを現段階の拠り所とし、そのレコード単位に従うこととします。

なお、

- ・同じ著作と思われる 2 つのレコードは、SF・SAF フィールドを用いて複数の書名を関係づける
- ・1 つのレコードしかない著作を、UTL フィールドの「その他の情報」に情報を追加することで区別する

など、現行規則の範囲内で各自の判断で情報を整備することも可能かと思われます。

Q 11 日本古典籍総合目録データベースの著作レコードに疑義がある場合、または誤りがあると考えられる場合はどのようにすべきでしょうか。

A 11

日本古典籍総合目録データベースの著作レコードに疑義がある場合は、NACSIS-CAT の統一書名典拠レコードに正しいと思われる情報及び著作 ID を記録し、疑義・誤りと思われる点について国文学研究資料館に報告していただきます。国文学研究資料館では、調査の上、日本古典籍総合目録データベースを修正するかどうかを決定します。

この手順の詳細につきましては、別紙「統一書名典拠レコード作成にあたっての「日本

古典籍総合目録データベース」との調整手順」を参照してください。

Q 1 2 日本古典籍総合目録データベースの著作レコードと同じかどうか、同定できない場合は、どのようにすべきでしょうか。

A 1 2

日本古典籍総合目録データベースに収録されているデータと見比べた上で、明らかに同じ著作であると判断できない場合は、収録されていない別の著作であると見なしてレコードを新規作成するか、もしくはリンクを形成しなくてもよいということになります。Q 1 3をご参照ください。

Q 1 3 日本古典籍総合目録データベースのレコードを参照せず、新規に統一書名典拠レコードを作成する必要がある場合にはどのようにすべきでしょうか。

A 1 3

今回の検討では、新規作成にあたっての細則の作成にまでは至りませんでした。しかし、今回新たに加えた規則のほかは、これまでの新規作成と同じです。コーディングマニュアル等に従い、既存のレコードを参照するなどして、新規作成や情報の整備等を行なってください。

Q 1 4 すでに統一書名典拠ファイルに存在するこれまでの統一書名典拠レコードは、どのように扱われるのでしょうか。

A 1 4

既存の統一書名典拠レコードのうち、日本語の古典作品に該当するレコードは、今回改訂したコーディングマニュアルにあわせて、NIIで一括して修正作業を行ないます。該当する著作が既存の統一書名典拠レコードの中にあれば、それを使用してください。

統一書名典拠レコード作成にあたっての「日本古典籍総合目録データベース」との調整手順

平成 23 年 12 月公開

統一書名典拠レコードの作成（修正）にあたって、日本古典籍総合目録データベースの著作レコードについて、その内容に疑義がある場合は、以下のとおり、国文学研究資料館あてに連絡してください。

（以下、日本古典籍総合目録データベースとの異同を発見した参加館を「発見館」とします。）

- 1) 発見館は、NACSIS-CAT の統一書名典拠レコードを作成（修正）します。

HDNG→疑義がある点は、訂正の上、記述します。

日本古典籍総合目録データベースの著作 ID は、KOTEN:****として記述します。

NOTE→「日本古典籍総合目録データベースと異同があるため調整中」と記述します。

- 2) 発見館は、国文学研究資料館の担当部署に、手元の資料と日本古典籍総合目録データベースの内容に異同がある旨の連絡を行います。
連絡の際に必要な項目は、以下のとおりです。

- ・作成した統一書名典拠レコードの ID
- ・日本古典籍総合目録データベースの著作 ID（WID）および統一書名
- ・異同があると思われる内容
- ・根拠/情報源（メールの PDF/画像ファイル添付もしくは別途 FAX 送付）

連絡先：国文学研究資料館 学術情報課 マイクロ資料目録係

E-Mail：qa-koten[at]nijl.ac.jp [at]を@に変えてください。

FAX：042-526-8606

※原則として、E-Mail で連絡。

- 3) 国文学研究資料館で、内容の確認および参考資料等の調査を行い、日本古典籍総合目録データベースの修正を行うか否かを決定します。

修正を行う場合には、その結果が公開されるまでに早くても 3 か月程度かかりますのでご注意ください。

修正を行うか否かについては、決定次第、国文学研究資料館から、発見館に連絡があり

ます。

- 4) 国文学研究資料館からの連絡後、発見館は、NACSIS-CAT の統一書名典拠レコードの修正を行います。

- ① 調整の結果、日本古典籍総合目録データベースが修正された場合

発見館は、NACSIS-CAT の統一書名典拠レコードの NOTE から「日本古典籍総合目録データベースと異同があるため調整中」の記述を削除します。

- ② 調整の結果、日本古典籍総合目録データベースは現状維持となった場合

発見館が判断の上、以下の a) b) いずれかの作業を行います。

- a) NACSIS-CAT の統一書名典拠レコードから、HDNG に記述した日本古典籍総合目録データベースの著作 ID (KOTEN:****) および NOTE の「日本古典籍総合目録データベースと異同があるため調整中」の記述を削除します。

- b) NACSIS-CAT の統一書名典拠レコードを、日本古典籍総合目録データベースに合わせた形に修正します。また、NOTE の「日本古典籍総合目録データベースと異同があるため調整中」の記述を削除します。

また、必要に応じて、調整の結果採用されなかった形や訂正前の形を、SF フィールドや NOTE フィールドに記録してください。

なお、日本古典籍総合目録データベースの著作レコードに疑義の可能性があるが、同定しがたい場合は、発見館は HDNG に KOTEN ID は記述せずに統一書名典拠レコードを作成（修正）してください。この場合、国文学研究資料館に連絡する必要はありません。

和漢古書に関する取扱い及び解説

(平成 14 年度第 2 回図書館情報委員会 承認)

9. 統一タイトルの取扱い (平成 23 年 12 月改訂)

NCR87R2 26.0.2 の規定にかかわらず、日本語・中国語の古典作品については、UTL フィールドに統一タイトルを記録し、また統一書名典拠レコードを作成してリンク形成することができる。

NCR87R2 では統一タイトルの適用は「無著者名古典、聖典および音楽作品」の範囲に限られているが、和漢古書における著作単位での集中の重要性を考慮し、著者を有する古典作品にも適用できることとした。「目録情報の基準 第 4 版」9.2.1. では中国語資料に限って作成範囲を「無著者名古典を含む古典、聖典及び音楽作品」としており、これを日本語資料にも適用する。

具体的な作成規則については、コーディングマニュアル 14 章を参照のこと。

なお、中国語の古典作品の具体的な作成規則については、引き続き検討中である。

特殊文字・特殊言語資料に関する取扱い及び解説

(平成 23 年 12 月 9 日版)

本取扱いでは、特殊文字・特殊言語資料について、書誌レコード作成上、基本方針を中心に取りまとめた。各事項の具体的なデータ記入の方法については、別途作成している「コーディングマニュアル」で規定する。

1. 適用範囲

本取扱いは、従来規則で取り扱い困難な特殊文字・特殊言語で書かれた資料を対象とする。すなわち、日本語および英語等のラテン文字以外で書かれた資料が対象となる。但し、別途規則が定められている文字、言語については対象とせず、当該規則で取り扱うものとする。平成21年10月現在別途規則が定められている文字、言語は以下のとおり。

- 中国語
- 韓国・朝鮮語
- アラビア文字
- タイ文字
- デーヴァナガリ文字

キリル文字、ギリシア語に関しては、別途規則が定められていないため、本取扱い及びコーディングマニュアルで取り扱うこととなる。

2. 適用する目録規則

特殊文字・特殊言語資料の登録においては、「英米目録規則第2版(1988年改訂, 1993年修正)」を適用する。

日本語、中国語、韓国・朝鮮語以外の資料については、「英米目録規則第2版(1988年改訂, 1993年修正)」を適用することとなる。

中国で出版されたチベット語の資料のように、奥付に中国語表記を持つ資料であっても、本文中の言語から中国語以外の資料とするのが適切と考えられる資料については、「英米目録規則第2版(1988年改訂, 1993年修正)」を適用し、標題紙にある原綴でのタイトル表記をTRに記述する形で書誌を作成する。

3. 目録用言語

特殊文字・特殊言語資料においては、目録用言語として英語を用いる。ただし、必要に応じて、目録対象資料の本文の言語を目録用言語として使用できる。

4. 記述に用いる文字

転記の原則に従い、原則として、記述対象資料に表示されているままの字体を使用する。目録システムにおいて使用可能な文字セット(目録システム用文字セット)ではない場合は翻字で入力することができる。

ただし、書字方向が右から左の文字のうち、数字のみ書字方向が逆になる場合は、転記の原則の例

外としてアラビア数字で記入する。なお、この場合、原綴を VT に記入する。

Modi script（マラーティー語で使用されていた、マラーティー語を表記する文字種）のように文字コードが未設定の文字種等は翻字で入力する。

基本的には転記の原則に従って入力できるが、特定の文字だけは文字コードが存在しない等の理由により入力できない場合においては、該当の文字だけを、LC の採用する方式に準じて、当該言語に応じた翻字形を「◆」で囲んで入力する。

数字についても転記の原則を適用し、巻冊次、親書誌番号など英米目録規則およびコーディングマニュアルで定める特定のフィールドを除いて、書かれている通りの文字種で記述する。検索時に、いわゆるアラビア数字で検索される可能性を考慮し、VT を追加することが望ましい。

文字コードの割り当てや翻字等の問題により、検索にゆれが生じると考えられる点について、正規化処理のシステム改造を行う。なお、正規化処理については、「NACSIS-CAT における正規化処理について」* を参照のこと。

*平成 23 年度末公開予定

5. 原綴分かち書きの取扱い

特殊文字・特殊言語のうち、正書法で分かち書きをしない言語の書誌レコードにおいては、原綴の分かち書きをヨミフィールドに記録する。

分かち書きの単位は、原則として単語単位とする。連声する前と後とで表記が異なる場合は、連声する前の形を原綴の分かち書きとして記録する。

なお、正書法で分かち書きをする言語の書誌レコードにおいては、原綴の分かち書きは記録しない。

正書法で分かち書きをしない言語の書誌レコードにおいては、単語単位の検索を可能とするため、原綴の単語単位の分かち書きをヨミフィールド (TRR, VTR, CWR) に記録することとした。なお、正書法で分かち書きをする言語の書誌レコードにおいては、その必要がないため、ヨミフィールドは使用しない。

分かち書きについてその言語の一般的な原則と異なる表記がなされている資料については、書かれている通りの形を記録した上で、原則的な形は必要に応じて VT に記録することとする。

これら取扱いはアラビア文字資料、タイ文字資料、デーヴァナガリ文字資料の規則に準じている。

6. 翻字形の取扱い

特殊文字・特殊言語資料の書誌レコードにおいては、ALA-LC 翻字形をその他のヨミとして記録する。

ALA-LC 翻字形以外の翻字、その他のヨミフィールドに記録できなかった翻字は、VT:RM に記録することができる。

また、ALA-LC 翻字形が適用できない場合は、他の翻字形を採用しても良いこととする。

ローマン・アルファベットによる翻字形は、ALA-LC の翻字表を基本とし、その他のヨミ (TRVR, VTVR, CWVR) フィールドに入力することとした。

そのため、VT:RM に翻字を記録していたもので、別途規則が定められていないもの（キリル文字等）は、今後はその他のヨミフィールドに翻字を記録することになる。

7. 既存データの取扱い

既存データについては、本取扱いにもとづき修正可能な参加館が修正を行う。

キリル文字資料, ギリシア語資料も, 本取扱いにもとづき修正可能な参加館が修正を行う。

8. 典拠の扱い

ALA-LC 翻字形を標目形とする。特殊文字・特殊言語による表記は, SF フィールドに記入する。また, ALA-LC 翻字形が適用できない場合は, 他の翻字形, 特殊文字・特殊言語による表記の順で採用することとする。

原則については, アラビア文字資料, タイ文字資料, デーヴァナガリ文字資料の規則に準じている。

9. 書誌レコードの登録例

(1) ベンガル語 (ベンガル文字)

VOL: 1. খণ্ড

TR: অতীত জীবনের স্মৃতি / মোহাম্মদ আজরফ|||Atīta jībanera smṛti

ED: 1. প্রকাশ

PUB: ঢাকা : নওরোজ কিতাবিস্তান , 1987-

PHYS: 220 p. ; 22 cm

AL: *Ājarapha, Mohāmmada, 1906- <DA16335176>

(2) Панжя́р-Бий-түгэ (Гурлм-Кий-түгэ)

TR: ਬਾਬੇ ਮੋਹਨ ਵਾਲੀਆਂ ਪੋਥੀਆਂ / ਸੰਪਾਦਕ, ਗੁਰਸ਼ਰਨ ਕੌਰ ਜੱਗੀ|||Bābe Mohana wālīāṃ pothīāṃ

PUB: ਦਿੱਲੀ : ਆਰਸੀ ਪਬਲਿਸ਼ਰਜ਼ , 1987

PHYS: 58 p. ; 21 cm

AL: *Jaggī, Gurasharana Kaura <DA14347141>

コーディングマニュアル(特殊文字・特殊言語資料に関する抜粋集)

(平成 23 年 12 月 9 日版)

0. 適用範囲

日本語および英語等のラテン文字以外で書かれた資料のうち、別途規則の定められている文字・言語（中国語，韓国・朝鮮語，アラビア文字，タイ文字，デーヴァナガリ文字）を除いた文字・言語で書かれたものを特殊文字・特殊言語資料とする。

1. 目録用言語

1.1. 1B 〔目録用言語〕

特殊文字・特殊言語資料においては、目録用言語として英語を用いる。ただし、必要に応じて、目録対象資料の本文の言語を目録用言語として使用できる。

2. 転記の原則

特殊文字・特殊言語資料においては、転記の原則に従い、原則として、記述対象資料に表示されているままの字体等を使用する。ただし、目録システムにおいて使用可能な文字(目録システム用文字セット)ではない場合は翻字で入力することができる。

ただし、書字方向が右から左の文字のうち、数字のみ書字方向が逆になる場合は、転記の原則の例外としてアラビア数字で記入する。なお、この場合、原綴を VT に記入する。

3. 図書書誌レコード

3.1 タイトルおよび責任表示 TR

(ヨミ)

特殊文字・特殊言語のうち、正書法で分かち書きをしない言語の書誌レコードにおいては、タイトルの原綴の分かち書きを、TRRに記録する。分かち書きの単位は単語単位とする

(その他のヨミ)

特殊文字・特殊言語資料においては、タイトルのALA-LC翻字形を、その他のヨミとしてTRVRフィールドに記録する。ALA-LC翻字形を記録できない場合は、ALA-LC翻字形以外の翻字形を記録することができる。ALA-LC翻字形以外の翻字形を記録した場合は、採用した翻字規則等について、NOTEフィールドに記録する。

3.2 その他のタイトル VT

(ヨミ)

特殊文字・特殊言語のうち、正書法で分かち書きをしない言語の書誌レコードにおいては、その他のタイトルの原綴の分かち書きを、VTRに記録する。分かち書きの単位は単語単位とする。

(その他のヨミ)

特殊文字・特殊言語資料においては、その他のタイトルのALA-LC翻字形を、その他のヨミとしてVTVRフィールドに記録する。ALA-LC翻字形を記録できない場合は、ALA-LC翻字形以外の翻字形を記録することができる。ALA-LC翻字形以外の翻字形を記録した場合は、採用した翻字規則等

について、NOTE フィールドに記録する。

(VT:RM)

VT:RM には、その他のヨミとして TRVR, VTVR, CWVR に記録しなかった翻字形を記録することができる。

3.3 内容注記 CW

(ヨミ)

特殊文字・特殊言語のうち、正書法で分かち書きをしない言語の書誌レコードにおいては、内容注記の原綴の分かち書きを、CWRに記録する。分かち書きの単位は単語単位とする。

(その他のヨミ)

特殊文字・特殊言語資料においては、内容注記の ALA-LC 翻字形を、その他のヨミとして CWVR フィールドに記録する。ALA-LC 翻字形を記録できない場合は、ALA-LC 翻字形以外の翻字形を記録することができる。ALA-LC 翻字形以外の翻字形を記録した場合は、採用した翻字規則等について、NOTE フィールドに記録する。

4. 著者名典拠レコード(個人名)

4.1 標目形 HDNG

ALA-LC 翻字形を標目形とする。特殊文字・特殊言語による表記は、参照形として SF フィールドに記録する。ALA-LC 翻字形を記録できない場合は、ALA-LC 翻字形以外の翻字形を標目形とする。ALA-LC 翻字形以外の翻字形を標目形とする場合は、採用した翻字規則等について、NOTE フィールドに記録する。翻字形が記録できない場合は、特殊文字・特殊言語による表記を標目形とする。

4.2 を見よ参照 SF

特殊文字・特殊言語による参照形を記録する。

5. 著者名典拠レコード(団体名)

5.1 標目形 HDNG

ALA-LC 翻字形を標目形とする。特殊文字・特殊言語による表記は、参照形として SF フィールドに記録する。ALA-LC 翻字形を記録できない場合は、ALA-LC 翻字形以外の翻字形を標目形とする。ALA-LC 翻字形以外の翻字形を標目形とする場合は、採用した翻字規則等について、NOTE フィールドに記録する。翻字形が記録できない場合は、特殊文字・特殊言語による表記を標目形とする。

5.2 を見よ参照 SF

特殊文字・特殊言語による参照形を記録する。

6. 統一書名典拠レコード

6.1 標目形 HDNG

ALA-LC 翻字形を標目形とする。特殊文字・特殊言語による表記は、参照形として SF フィールドに記録する。ALA-LC 翻字形を記録できない場合は、ALA-LC 翻字形以外の翻字形を標目形とする。

ALA-LC翻字形以外の翻字形を標目形とする場合は、採用した翻字規則等について、NOTEフィールドに記録する。翻字形が記録できない場合は、特殊文字・特殊言語による表記を標目形とする。

6.2 を見よ参照 SF

特殊文字・特殊言語による参照形を記録する。

以上

